



あすなるだより

2009年7月1日

発行 三重県立^{こども}小児心療センター あすなる学園 広報担当
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL. 059-234-8700 FAX. 059-234-9361
MAIL: asunaro@pref.mie.jp URL: http://www.pref.mie.jp/ASUNARO/HP/

年度初めの思い

あすなる学園長 西田 寿美

3年越しの我が家の狭い庭の話題です。

—昨年メジロとヒヨドリのえさをめぐる壮絶な攻防のお話をしました。結局メジロはヒヨドリに追われる一方でした。

当方はなんとかメジロだけにみかんを食べさせたいと思い、ヒヨドリがいないときをねらってみかんを木の枝に引っ掛けたり、ヒヨドリを追い払ったりといろいろ工夫してみたのですが、メジロが食べ始めるとどこからとなくヒヨドリがやってきて、メジロは逃げるという繰り返しでした。見物側はいろいろかしましく論議し、—昨年は「興味深く眺めてあきません」と報告しました。

今年、メジロの姿を見かけるようになって、我が家のエゴノキにはみかんが引っ掛けられなくなりました。同じ攻防戦を見飽きてしまったのです。

えさをやらないようになって庭を見ていると、メジロは椿やあせびの花蜜を吸いながら飛び回り、ヒヨドリは椿の花蜜やきんかんの実をつついて満足すると飛び去っていきます。椿の花蜜はヒヨドリが優位で、あせびはメジロの独占、きんかんはヒヨドリと住みわけが自然になり、何か穏やかなながめになっていました。

かわいい鳥のメジロに肩入れした作為によって、庭の見え方が変わっただけでもいえます。自然の中ではそれぞれの種はバランスを保って生活しており、人間の作為がそのバランスをくずしただけで、作為がなくなれば自然に元に戻るということのようでした。

家族の治療では、こちらの価値観で肩入れしたり、ありようを無理に変えようとするとうまくいきません。人間関係には当事者にしかわからないバランスがあります。それは微妙なバランスで、外からの力で変えようとするとうまくいきませんが、すぐ元に戻ったり、反動でバランスがくずれたりします。当事者がバランスを変える必要性を意識したときは思いがけない変化が起こります。

治療者側にできるのは、家族間の困り感をうきぼりにし、変化の必要性を意識するお手伝いのように、穏やかな変化が一番受け入れやすいようです。

あすなろだより No.35において、「暴言・暴力の観察と対応のポイント」各段階の関係と①危機のない段階（安定期）についてお伝えさせていただきましたが、今回はその続きで②危機のサインを見せ始める段階（不安定期）について掲載いたします。

暴言・暴力の観察と対応のポイント No.2

あすなろ学園 暴言・暴力対応プロジェクト

② 危機のサインを見せ始める段階（不安定期）

この段階では、子どもが示す小さな危機サインを的確に察知することが大切となってくる。危機のサインは放置すれば、いずれ自他に対する攻撃性が明らかとなる状態へ連続していくものと捉える必要がある。大人の話を書くことや行動の振り返りが可能である。早期の介入で、問題行動の出現をくいとめることができる。子どもの変化に合わせた関わり方や支援の方法を工夫する必要がある。

広汎性発達障害児

日常生活リズムの変化やこだわりの増強など、普段と異なる様子や態度などを見逃さない。

（言動・態度・嗜好変化など）

多動・衝動性が顕著な児

日常生活リズムの変化や、易刺激性の亢進の有無、気分高揚の有無、他者に対する過干渉や試し行動の増加を適切に把握する。

1. 子どもの状態

広汎性発達障害児	多動・衝動性が顕著な児
<ul style="list-style-type: none"> ・こだわりや常同行動が増強し、切り替えが困難となって、日常の流れに沿った生活が送りづらくなる。また、大人の指示や声かけに応じにくい場面が増える。 ・目を閉じる、目がつりあがる、眉間にしわが寄る、顔面紅潮など、表情の変化がみられる。 ・コミュニケーションが不十分で、気持ちの表現が難しく人に伝えることが上手くできない。そのため、不安、混乱、恐怖に陥り、突然イライラし大声でわめいたり、泣き出したりする。 ・感覚過敏が亢進することで、日常生活場面において容易に不隠となる（特定の音や声に対して耳をふさぐ、服の着脱を嫌がる。特定の場所、部屋に入ることに抵抗するなど）。 ・過度の要求及び確認の行動がある。 ・大人や他の子どもと適切な距離を保つことが困難となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意集中が途切れやすく、易刺激性の亢進のため、日常の流れに沿った生活が送りづらくなる。また、大人の普段の指示や声掛けに応じにくい場面が増える。 ・目がつりあがる、眉間にしわが寄る、顔面紅潮など、表情の変化がみられ、余裕がなくなる。 ・感情コントロールが困難なため、気分が高揚しやすくなる（多動、多弁、声のトーンが高くなる、話すスピードが増す）。 ・場面に関わらず、他の子どもへの過干渉や悪ふざけが目立つ。 ・苛立っている言動や大人を試す行動が増える（大人を呼び捨てる・不必要な身体接触や、無理な要求をして相手を困らすなど）。 ・自らその苛立ちの対象と距離を保つことが困難となる。（要求への対応をすぐに求めたがる） ・自らの要求（不可能・非現実的な要求ではない）に対して待つことが困難となる。 ・普段に比べて了解が悪くなる。

2. 普段の観察ポイント

広汎性発達障害児	多動・衝動性が顕著な児
<ul style="list-style-type: none"> ・暴力、自傷、突然のパニックなどが起きる直前後の状況を把握し、危機が収束するかエスカレートするかを判断する。 ・欲しい物がもらえなかったなど、要求が満たされない状況にないか観察する。 ・平素慣れていない場所や状況におかれ、不安、混乱、恐怖、緊張を感じていないか観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・暴言・暴力や、易刺激性による衝動行為などが起きる直前後の状況を把握し、危機が収束するかエスカレートするかを判断する。 ・試し行動を単に暴言・暴力としてだけ捉えるだけでなく、その行動の背景にある子どもの状況を観察する。

共通 子どもの変化に影響していると思われる大人の対応（子どもの能力、特性を無視した指導など）や環境要因（無理な課題設定、刺激的な環境など）について観察する。

3. 対応ポイント

広汎性発達障害児	多動・衝動性が顕著な児
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉でのコミュニケーションが苦手な子どもは、ゆっくり歩きたい、一人でブランコに乗りたいなどの思いが言語化できず、他害行為にでることがあるため、絵カードや指差しを用いるなど、工夫し、要求を把握する。 ・見通しがたたない不安に対しては、子どもがわかるよう説明する。 ・自他共に不快と思われるこだわりであれば、早期に介入することで増強を防ぐ。好きな音楽を聴く他の遊びに誘うなどの方法で気をそらせる。 ・「体を揺らす」「行ったり来たりする」（常同行動）などの自他共に不快と思われないこだわりは、子どもの精神面での安定に繋がる場合もあり、受容することも大切である。その際、安全が確保できる場所への移動や他者とのトラブルに発展しないよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情の表現が苦手な子どもは、時に大人への試し行動や物にあたるなどの粗雑な行動がみられる場合がある。可能な部分は受容的に接した上で、原因となる苛立ち・不満の言語化を促す。時に代弁しながら、代替方法を検討する（そんな理由でイライラしていたのだね、じゃあ〇〇みたいなやり方もあるけどどう?）。 ・要求に対し一方的に制限せず、理由や状況、何故今できないのかを理解できるように説明する。更に、「何時なら出来る」といった情報も伝える。 ・大人の対応によって、コントロールを取り戻し、危機を回避できたら大いに評価する。（上手に休憩をとって落ち着いたね、イライラを大人によく言いにこられたね、など）

〔環境設定〕

（共通）クールダウンスペースの提供

エスカレートする前にクールダウンできるように、静かな場所へ誘導する。

（広汎性）不安・混乱・緊張を来す不快に感じる刺激（騒音・光・温度・皮膚感覚など）は可能な限り事前に取り除く。

（多動・衝動性）気分が高揚している際は、衝動的な行動に至りやすいので（他の子どもへの過干渉、棒があれば振り回す、ボールがあれば投げるなど）他に影響がないように注意し、不要な物をとりのぞく。

三重県立小児心療センターあすなる学園／三重県自閉症・発達障害支援センター

講演会・シンポジウムのお知らせ

テーマ：「これからの地域子育て支援を考える

～不登校・ひきこもりから透^みえてくるもの」

日時：平成21年7月23日（木） 開場 9:30 開演 10:00

場所：三重県総合文化センター 文化会館 中ホール

プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第1部 講演会（10:00～11:30）

演題：「家族援助のツボ ～ホームとアウェイの面接～」

講師：岡田 隆介（広島市こども療育センター心療部長）

第2部 シンポジウム（13:00～16:30）

シンポジスト：川畑 隆（京都学園大学人間文化学部教授）

石山佳秀（NPO 法人フリースクール三重シュレ代表）

中島弘道（あすなる学園医療部医長）

指定討論：岡田隆介（前出）

司会：あすなる学園 園長 西田寿美

定員：900人

参加費：無料



申込み・問い合わせ先

〒514-0818 津市城山1丁目12番3号

三重県立小児心療センター あすなる学園 医療連携室

電話：059-234-8700（内線332）

FAX：059-234-9361（FAX専用）

外来診療のご案内

（平成21年7月1日現在）

*診察は完全予約制です。

●予約電話番号

059-234-9700

曜日	月	火	水	木	金
1 診	中島	西田	大槻	河野	西田
2 診	吉岡	中西	石田	中西	大槻
3 診	河野	中島	中野	吉岡	中野
4 診	石橋				小林